

**2020年度第5回支部集会【東北支部】****「地域日本語教育のこれまでとこれから-その多様なありようを見つめる-」
開催報告**

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2020年12月12日(土)13:00-17:15 会場：オンライン (Zoom)

参加者：50名 (会員50名・一般50名)

2020年度東北支部集会が12月12日(土)にオンラインにて開催されました。様々な研究会や学会が同日に行われている中での開催でしたが、東北地区を中心に会員、非会員の皆さま50名にお集まりいただき、開催することができました。

最初に口頭発表、ポスター発表、交流ひろばを並行して開催しました。各発表者のみなさまにはご準備等あらためて感謝申し上げます。一方で、オンラインにおける各セッションの進行方法など、運営面でいくつかの課題も見えました。これらについては今後の検討課題とさせていただきます。

次に、「進路ガイダンス宮城」の12年のあゆみ—子どもたちの可能性を後押しする“連帯”のかたち」と題してパネルディスカッションを行いました。はじめに、進路ガイダンス宮城実行委員長の田所希衣子さんより、ガイダンスの発足の経緯や概要について説明がありました。その後、ガイダンスの共催団体である宮城県国際化協会と仙台観光国際協会より、それぞれ大泉貴広さんと須藤伸子さんから実行委員会形式でガイダンスを実施する意義などについてお話をいただきました。続いて、陳誠さん(中国出身)からは、中学卒業後に来日したご自身の経験から、日本語を母語としない子どもたちの居場所の必要性について語られました。さらに森野カヨリナさん(アルゼンチン出身)は、保護者の立場から進路ガイダンスの意義についてお話をいただきました。また、李王寧さん(中国出身)より、母語支援・学習支援者の立場から、支援においては外国人の親子に寄り添うことが何よりも大切ではないかというお話がありました。それらの各パネリストからのお話を踏まえて、田所さんから中学生、高校生で来日した子どもが抱える課題について問題提起があり、参加者との質疑応答を交えつつ、議論がなされました。議論を通じて今後の具体的な課題とともに、子どもたちが未来を切り拓いていくのを後押ししようという共通の思いが進路ガイダンスにおける連帯の礎になっている、という思いを共有する貴重な時間となりました。

続く対話のひろばでは、公益財団法人宮城県国際化協会地域日本語教育アドバイザー・東北中国帰国者支援・交流センター日本語講師の鈴木英子さんをお迎えし、鈴木さんの実践についてお話しいただくとともに、参加者の皆さんが自身の実践を振り返り、授業のあり方、教室のあり方について考える時間を設けました。鈴木さんの帰国者の皆さんと向き合い、授業のあり方、教室のあり方を問いながら試行錯誤された経緯、そして現在取り組まれている演劇を取り入れた実践に関するお話は、新型コロナウイルスで授業のあり方、教室のあり方に大きな転換を迫られた私たちの実践について今一度立ち止まって考える機会となりました。対話のひろばは、昨年の東北支部集会から実施しており、東北地区を中心とした日本語教育関係者の皆様がお互いに自由に話し合える学びの場づくりを目指しています。今年度はオンラインでの実施でしたが、ここでできた新しいつながりが東北地区の“連帯”となっていくことを願っています。

今回の集会では、東北支部にとって初めてのオンライン開催となり、不手際や至らない点も多かったかと思います。登壇者としてお話しくださった進路ガイダンス宮城実行委員会の皆様、対話のひろばでご自身の実践についてお話しくださった鈴木さんには心から御礼を申し上げます。また当日の運営にあたり、協力くださった小河原義朗さん(東北大学)、高橋亜紀子さん(宮城教育大学)にも、感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

今回参加くださった皆様から、アンケートにて様々な興味関心が寄せられています。皆さんの興味関心に応えられるような支部集会を企画していくとともに、皆さんがつながっていけるような場、“連帯”をつくっていけるような場の提供を行っていきたいと思います。

(報告者：支部活動委員 島崎薫・菊池哲佳)